



index

- ・【夜叉ケ池】 P 1
- ・【環境保全】光化学スモッグを監視 P 2
- ・【保健衛生】マダニに注意 P 3
- ・【トピックス】 P 4



「夜叉ケ池」でのサンプリング

ヤシャゲンゴロウ；自然保護センター提供

「夜叉ケ池」での酸性雨影響調査

福井県南越前町(旧今庄町)の南部、岐阜県境の三国岳から三周ヶ岳に連なる尾根の鞍部付近(標高1,100m)に位置する「夜叉ケ池」は、周囲約230m、面積36a、最大水深7.7mの池で、ブナの原生林に囲まれている。流れ込む谷筋も、流れ出る川筋もないが、pHやアルカリ度が低く、水質の酸性化が危惧される湖沼の一つとして、環境省が行う「酸性雨長期モニタリング計画」の調査対象になっている。

最近では、「夜叉ケ池」を唯一の生息地とするヤシャゲンゴロウが絶滅危惧種類に指定されたが、酸性化による陸水生態系への影響が懸念されている。

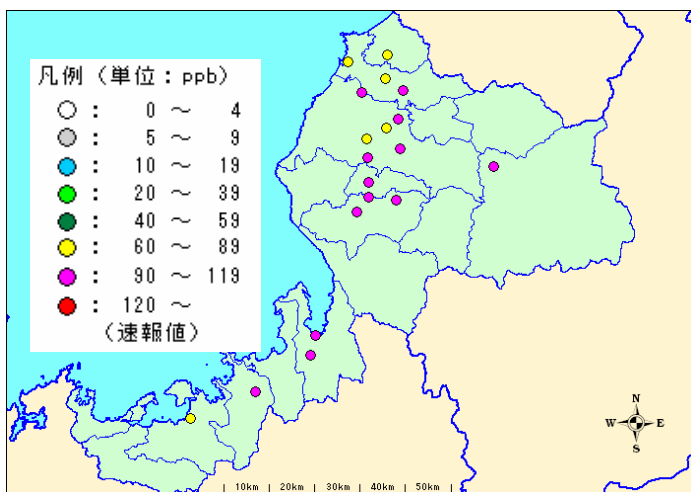
当センターでは、国(環境省・林野庁)と協力して、「夜叉ケ池」において水質調査を実施し、酸性化のメカニズムの解析・解明を進めている。

環境保全 テレメータシステムで光化学スモッグを監視

人体や農作物に有害な光化学スモッグは、春から夏にかけての紫外線が強い時期に多く発生します。

県では、光化学スモッグの指標として、大気中の光化学オキシダントの濃度を測定しています。大気汚染防止法では、県は光化学オキシダントなどの有害な物質の濃度を常時監視し、人の健康や生活環境に被害をもたらすおそれがある場合には注意報を発令するよう定められています。このような常時監視および緊急時の対応を的確に実施するための設備が大気汚染監視テレメータシステムです。

当センターではこのシステムの運用管理を行うとともに、得られたデータを活用して大気汚染の挙動解明を行っています。



(測定例) 2007年5月24日15時の光化学オキシダント濃度分布



嶺北の測定局(神明局)



嶺南の測定局(小浜局)

注意報発令に注意!

福井県では1975年にこのシステムを導入し、昨年までに計5回、光化学スモッグ注意報を発令しています。昨年は注意報発令こそなかったものの、発令一步手前の高濃度が何度も観測されました(左の測定例参照。120ppbが注意報発令基準値)。

気象状況にもよりますが、今年も高濃度が観測される可能性は十分にあります。もし、注意報が発令された場合には、健康被害を防ぐため、屋外での活動は控えてください。

携帯電話にも情報発信

高濃度が観測された場合、当センターでは、関係機関への予備的通報や監視強化など注意報発令に備えた準備を行います。

観測データはホームページでリアルタイムで公開しています。また、携帯電話でも観測データや注意報発令情報を見ることができます。全国の大気汚染情報を表示する、環境省の「そらまめ君」の携帯用ページにもリンクしていますので一度ご覧になって下さい。

アドレス <http://www.erc.pref.fukui.jp/kt/>

(文責 山田 克則)

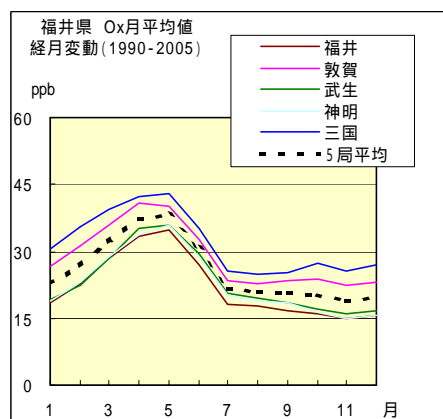
研究紹介

光化学オキシダント等の挙動解明に関する共同研究

大気は県境や国境を越えて移動することから、大気汚染については広域的な視点で対応に取り組む必要があります。この共同研究は国立環境研究所と複数の地方環境研究所が参加しているもので、各県がデータを持ち寄り、光化学オキシダント(Ox)の測定値に一定の傾向や規則性があるかどうかを比較解析しています。

その結果、全体として、近年、その濃度が上昇傾向にあることや、季節変動において、北陸地方は1山型、九州地方は2山型などの地域的な特色が判明しました。それらの原因について現在、解析を進めているところです。なお、これまでの研究成果については国立環境研究所のホームページ(*)で公開されています。

(*) <http://www.nies.go.jp/pmdep/ctype/index.html>



(健康長寿推進室 山田 克則)

野山を歩くときは、マダニに注意しましょう！

あまり知られていませんが、「日本紅斑熱」という感染症があります。野山に入ること、細菌より小さいリケッチアの一つ、「リケッチア・ジャポニカ」という病原体を保有するマダニに刺されることにより感染します。高熱、発疹、刺し口が3徴候で、2～8日の潜伏後、頭痛、発熱、悪寒を伴って急激に発症します。高熱とともに、手足、手掌、顔面に米粒大から小豆大の紅斑が多数出現します。治療が遅れると重症化し死亡することもあります。

発生地域が拡大している！

日本紅斑熱は1984年に徳島県で患者が初めて確認されて以来、毎年数十名確認されています。発生地域は鹿児島県、宮崎県、高知県、徳島県、兵庫県（淡路島）、神奈川県、千葉県、島根県などですが、近年は愛媛県や三重県などでも確認されるようになり、年々拡大しています。



いろいろなマダニと吸血の様子（右下）
上段；吸血前、下段；吸血後、左端；マッチ棒
（写真提供：福井大学 高田伸弘先生）

福井県でも注意が必要！

そのような中、福井県でも2004年7月に、よく似た症例が確認されました。患者は大野市の荒島岳へ登山6日後に発症し、高熱、刺し口（右上腕部）とともに紅斑が手掌や足底にまで

見られましたが、日本紅斑熱に比べて色の薄い発疹でした。血清学的検査により、病原体は、国内では初となる「リケッチア・ヘルベチカ」と推定され、「紅斑熱群リケッチア症」と診断されました。



マダニの頭部写真

そこで、2005年～2006年に荒島岳のマダニを採集し、リケッチアの保有状況を調査しました。その結果、ヒトツゲマダニ32個体中8個体からリケッチアを分離。遺伝子解析の結果、「リケッチア・ヘルベチカ」と判明しました。したがって、2004年の症例の媒介者はヒトツゲマダニであったと思われます。また、小浜市の百里ヶ岳、池田町の冠山および勝山市の経ヶ岳で採集したヒトツゲマダニからも同じリケッチアが検出されています。



感染しないため・・・早期治療のため・・・

森林作業、野山の散策の際には、素肌の露出を少なくし、露出部には防虫スプレーを使用しましょう。マダニに刺されても痛みや痒みはないため、帰宅後は全身を注意深く調べましょう。もしも刺されていたら、マダニは指で潰さず、病院でマダニを頭部から除去してもらいましょう。

万が一、感染が疑われる症状が出た場合には、直ちに病院で診察を受け、野山での作業履歴等を医師に伝えましょう。
（文責 石畝 史）

トピックス

花粉飛散情報の提供開始

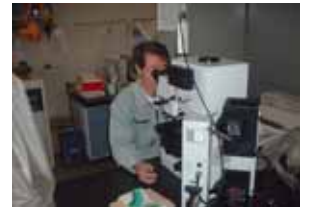
1月25日から福井市（衛生環境研究センター）と敦賀市（二州健康福祉センター）の2ヶ所で、スギ・ヒノキなどの花粉測定を開始し、結果を当センターのホームページで公開しています（5月頃までを予定）。

提供する情報は、毎日の花粉飛散量や日変化グラフ、翌週の花粉飛散予報（金曜日更新）スギ雄花の電子顕微鏡写真、花粉の知識、関連機関へのリンクなどです。

(<http://www.erc.pref.fukui.jp/center/kahunsystem/kahuntop.html>)



花粉採取



花粉量の計測

衛生・環境技術研修会で健康食品を学習

2月22日に県立図書館で、県民や関係職員を対象に衛生・環境技術研修会を行いました。当センターとして、初めて、外部施設での研修会を企画したところ、大変盛況で、55名の参加をいただきました。

参加者からは、鋭い質問やユニークな質問が次々と飛び出し、直接、県民の方々の声を聞く良い機会となりました。

研修会の内容

第1部 講演会 「健康食品の安全性と有効性」

講師 梅垣敬三先生（独）国立健康・栄養研究所

第2部 センター研究紹介：「健康寿命」、「インフルエンザ」、「酸性雨」

参加者の感想

- ・生活に密着した内容の研修会で、参加してよかったと思います。インフルエンザの発表では、高齢者施設で集団感染が起こったとのこと、ワクチンを接種していても、過信せず、日常の手洗い、うがいなどが大切だと思いました。
- ・サプリメントの事が知りたくて来ました。広告に惑わされてはいけないことがよく分かりました。資料を読み直したり、パソコンで見たりしてさらに知識を深めたいと思います。
- ・今まで特定の業者のサプリメントを10種類以上摂取していたが、今後は本当に必要なものかどうかをよく考えて使用したい。



梅垣先生

細菌検査技術研修開催

2月12日～15日の4日間、健康福祉センターの検査担当職員を対象とした細菌検査技術研修を開催しました。

研修内容は、腸管出血性大腸菌O157やサルモネラ、赤痢菌、コレラなど経口感染症の原因となる病原菌の分離・同定に関する実習でした。



菌集落からの釣菌操作

編集発行 福井県衛生環境研究センター 〒910-8551 福井市原目町 39-4
電話：(0776)54-5630 FAX：(0776)54-6739 E-mail：eiken@pref.fukui.lg.jp
ホームページ <http://www.erc.pref.fukui.jp/center/>
みなさんのご意見、ご質問をお待ちしています。

(08.03.16170)

編集後記
当センターのブランドは何か。広報に携わると考えます。花粉は新しい分野です。県民に直接役立つものであり、試行錯誤しながらのシステム構築でした。ご活用ください。(T)